

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●デスクトップOSのシェア、Windows 7が減少傾向も未だ全体の20.41%

<https://news.mynavi.jp/article/20201103-1448619/>
<https://gigazine.net/news/20201104-windows-7-still-second-os/>



このニュースをザックリ言うと…

- 11月初頭、データ分析企業のNetMarketShare社より、**2010年10月におけるデスクトップOSの市場シェア**が発表されています。
- **今年1月に無償サポートが終了したWindows 7のシェア**は全体の**20.41%**で、9月度の22.77%から減少しつつも、**未だに少なからぬシェアを維持**しています。
- また、2014年にサポートが終了した**Windows XP**も依然全体の**0.87%**存在し、こちらは**9月度の0.78%から微増**しているとのこと。

AUS便りからの所感等

- Windows 7には**企業向けの特定のエディションに対し1年単位でセキュリティパッチの提供が受けられる有償延長サポート(ESU)が2023年までの3年間提供**されていますが、**ESUを購入している割合がどのぐらいかは不明**で、恐らくは**それも購入しないで使われ続けているケースの方が多**いのではと推測されます。
- なお、最も多くのシェアを持つOSとされている**Windows 10**は全体の**64.04%**で、**9月度の61.26%から増加**しています。
- **長期的に10のシェアは増加、7のシェアは減少し続けている**とはされるものの、まだ数年は7が一定の割合を維持するとみられ、また**例えばアンチウイルスやUTM等による防御を固めたとしても脆弱性にパッチが当てられない状態のOSを稼働させ続けるのは危険**であり、企業等において**今も7が残っているのであれば早急に10への移行計画を立てるのが肝要**です。



10月OSシェア、Windows 10の増加が続く

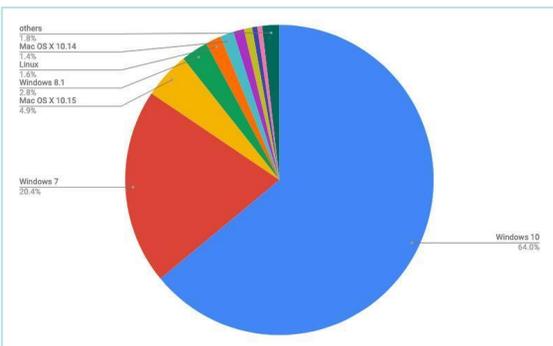
© 2020/11/03 11:23

著者：後藤大地

Twitter Facebook Blogger URLをコピー

Net Applicationsから2020年10月のデスクトップOSのシェアが発表された。2020年10月はWindowsとLinuxがシェアを増やし、Macがシェアを減らした。Windowsをバージョン別に見るとWindows 10がシェアを増やし、Windows 8.1とWindows 7がシェアを減らしている。LinuxではUbuntuがシェアを増やしている。

Windows 10は長期にわたる増加傾向を続けている。依然としてシェアの多いWindows 7だが、Windows 7は長期にわたる減少傾向を続けており、徐々にWindows 10へのシェア推移が続いている。この傾向は今後も続くと思われる。今後もWindows 10がシェアを増やし続けることが予想される。



2020年11月04日 19時00分

ソフトウェア

Windows 7が依然としてデスクトップOSのシェアで20%以上を占めておりWindows XPも根強く生き残っている



by mendhak

Microsoftは2020年1月に**Windows 7**のサポートを終了し、**Windows 10**への移行を強く勧めています。その一方で、データ分析企業のNetMarketShareが発表した2020年10月時点のデータによると、依然としてWindows 7ユーザーがデスクトップOSの市場シェアの20%以上を占めており、中には2001年に発表された**Windows XP**を使い続けているユーザーもいることがわかっています。

NetMarketShareが発表した2020年10月のデスクトップOSの市場シェアによると、最も多くデスクトップPCで使用されているOSはWindows 10であり、全体の64.04%を占めているとのこと。2020年9月の市場シェアが61.26%だったことから、1カ月で3%近くもシェアを伸ばしていることとなります。

2020年1月にサポートが終了したWindows 7は2020年9月の22.77%から2.3%近く下落したものの、2020年10月時点でも20.41%のシェアを占めています。サポート終了に伴ってWindows 7では「仕様変更、新機能のリクエスト」「セキュリティ更新、プログラムサポート」「無償、有償サポート」などの機能が利用できなくなりましたが、依然として企業顧客を中心にWindows 7が使われ続けているようです。

●国内でマルウェア「IcedID」が拡散か…Emotetに類似

<https://japan.zdnet.com/article/35162074/>
https://twitter.com/jpcert_ac/status/1324561915738091522



このニュースをザックリ言うと…

- 11月6日(日本時間)、JPCERT/CCより、**マルウェア「Emotet」に類似した手口**で別のマルウェア「IcedID」が拡散しているとして、**Twitterにて注意喚起**がされています。
- IcedIDが添付されたメールの一例として、「**過去やり取りしたメールへの返信(転送)を装う(件名にRe: やFW: が付けられる等)**」「**送信者名と同じ署名**」「**docファイルが含まれたパスワード付きzipファイルが添付**」といった特徴を持つ、**日本語によるなりすましメール**が挙げられています。
- Twitter上でもこのようなIcedID添付のなりすましメールが**10月下旬から相次いで報告**されている模様です(https://twitter.com/search?q=%23IcedID&src=typed_query&f=live)。

AUS便りからの所感

- IcedIDは**インターネットバンキング等をターゲットとするトロイの木馬型マルウェア**で、これ自体は今回初めて確認されたものではありません(2017年9月発見)。
- JPCERT/CCでは、**なりすましメールの送信元はマルウェア起因でなくメールアドレスへの不正ログインが疑われる**とし、**パスワードを再設定するよう呼び掛けている**が、**PCやメールアドレス等をマルウェアから保護することは取引相手を危険にさらさないようにする意味でも重要**です。
- IcedIDやEmotetがとっている手口は、**企業間のファイルのやりとりを「メールに暗号化zipファイルを添付して行う」という、今も多く使われるやり方を悪用している**ものであることから、**昨今の状況を鑑み、より安全なメールや文書等ファイルのやりとりについて打合せ、取り決めを行う**ことも視野に入れるべきでしょう。



国内でマルウェア「IcedID」が拡散か-- Emotetに類似

JPCERT コーディネーションセンター (JPCERT/CC) は11月6日、マルウェア「IcedID」の感染を招く不正なメールが複数報告されているとして注意を呼びかけた。近年流行するマルウェア「Emotet」の感染を招いた攻撃方法に似ているという。

BlackBerryによると、IcedIDは2017年にIBMのセキュリティ研究者が発見したトロイの木馬型の不正プログラム。銀行やペイメントカード会社、モバイルサービスプロバイダー、オンライン小売、総務計算ポータル、メールクライアントなど積極的に、金融関連情報や資格情報などを窃取するという。

Analysis Center @jpcert_ac

先週から複数のなりすましメール送信の被害報告を受けています。メールの特徴は #emotet と似ていますが、別のマルウェア(IcedID)へ感染させるメールです。

なりすましメールの送信元はマルウェア起因でなくメールアドレスへの不正ログインが疑われますので、パスワードを再設定ください。 ^KS

メールの送信元が不明な場合、送信元アドレスを確認してください。

送信元アドレス: [不明]

件名: [不明]

本文: [不明]

●10月のフィッシング報告件数、3万件弱で推移…対策協議会発表

<https://www.antiphishing.jp/report/monthly/202010.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 11月4日(日本時間)、フィッシング対策協議会より、10月に同協議会に寄せられたフィッシング報告状況が発表されました。
- **10月度の報告件数は28,727件**で、9月度(<https://www.antiphishing.jp/report/monthly/202009.html>)の28,575件より152件の増加、一方**フィッシングサイトのURL件数は5,554件**で、9月度の6,686件から1,132件の減少となっています。
- フィッシングメールに悪用されたブランドの上位は**Amazon・三井住友カード・楽天・MyJCB**で、これに**総務省の特別定額給付金を騙ったもの**を加えたものが報告全体の約90.9%を占めていたとのことです。

AUS便りからの所感

- 増加の勢いが激しかった先月度までからは一旦落ち着きを見せているものの、月間の報告件数としては**今年ほぼ右肩上がりを一貫**しており、**3万件を一気に突破して4万件に到達する**のも時間の問題とみられます。
- 「**二回目の特別定額給付金を騙るフィッシング**」については、10月15日に確認されたもの(AUS便り 2020/10/19号参照)に次いで「**特別定額給付金再給付申請手続き代行を始めました**。」という件名のメールの拡散も確認され、19日に同協議会より注意喚起がされています(https://www.antiphishing.jp/news/alert/kvufukin_20201019.html)。
- この他、全体的なフィッシングの傾向は、「**Appleやクレジットカード各社を騙る**」「**宅配便の不在通知を騙るSMSでの誘導**」等が**数ヶ月間続いている**、とにかく**出回っている手口について随時情報収集を行い、公式サイトへはブックマークに登録したURLからアクセス**するよう心掛ける等、日々フィッシングに誘導されない行動をとることを心がけて頂ければ幸いです。

